

(10) 東中筋小学校

学 校 長 小島 良友
校内研究代表者 弘瀬 栄美

1. 研究主題

『伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成』
～「考え、対話する道徳科」を要として～

2. 研究主題設定の理由

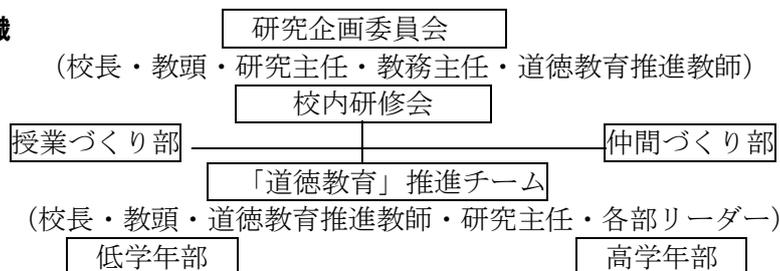
本校児童の学力の実態として、昨年度の学力調査の結果から見ると、6年生対象に行った全国学力学習状況調査の結果は、国語が全国比+8.2、算数が+7.4であった。また、4、5年生を対象に行った高知県学力定着状況調査の結果、4年生国語が県比+12.7、算数が+16.3、5年生国語が県比+5.8、算数が-1.5、理科が+1.1であった。昨年度の学校経営計画の到達指標として、全学年、全教科+3以上の数値目標であったが、3年生、4年生のみ達成できた。また、学級の中での2極化も進み、支援の必要な低位層児童も各学級にいる。学習内容の定着と学力の更なる向上を図るために、学習意欲を高め授業内容の質の向上に取り組むとともに、学習土台としてお互いに認め合い高め合う学習集団の育成に取り組んでいかなければならない。また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを進めるために、学びの質的改善や授業スタンダードの更なる徹底に努めていくとともに、併せて、家庭との連携によって、学習習慣の定着、基礎・基本の徹底を図っていくことが今後も必要であると考えます。

また本校では、一昨年度より高知県教育委員会の「道徳教育推進拠点校事業」の指定を受け、「考え、議論する道徳の授業」を要として、自らの生き方を振り返り、よりよく生きようとする態度を育てることを通して、お互いに認め合い尊重し、共に高め合っていくとしようとする児童の育成を図っていくことに取り組んできた。これまで2年間の道徳科の授業改善や、道徳に対する意識付けを行うことにより、道徳科の授業に対して意欲的に取り組む児童の姿が多くみられるようになった。また、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら道徳的価値について多面・多角的に考える姿も見られる。昨年度行った道徳意識調査において、「道徳の勉強は好きだ」に対しての肯定的評価98.0%、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考えている」に対しての肯定的評価が100%であった。反面、「自分には良いところがある」、「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用についての肯定的評価はやや低く、学校での取り組みや道徳科の授業が自尊感情の向上や、家庭との連携に十分に結びついていない現状がある。

そこで今年度は、家庭・地域への情報発信や協力体制の構築を更に進めるとともに、教育活動全体を通しての道徳教育の推進を図るために、教科・特別活動・学校行事等との関連を図る等工夫しながら、児童の道徳性の向上に繋げていきたいと考える。

このような趣旨から、研究主題を「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」、副題を～「考え、対話する道徳科」を要として～とし、全教職員で共通理解を図りながら研究を深めていくこととした。

3. 研究組織



4. 実践や研究の進め方

1. 道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実に関する実践研究
 - ・道徳教育の全体計画、年間指導計画、別葉(カリキュラム表)の見直し
 - ・ユニット化による道徳科授業の深化と道徳と生活のリンク

2. 道徳科の趣旨を踏まえた「考え、対話する道徳」の授業実践の研究
 - ・校内研修の充実、事前・事後研究の実施、授業研究における協議の視点の明確化、指導過程の工夫、話し合いの工夫
 - ・板書の工夫、教材・教具の充実、道徳教科書の活用の充実
3. 道徳科の趣旨を踏まえた評価の在り方に関する研究及び組織的・計画的な評価の推進
 - ・評価の研究(児童評価、授業者評価、道徳教科書の活用)、道徳授業チェックシートの活用
4. 家庭・地域との連携を図った道徳教育の実践研究
 - ・道徳参観日の充実、親子道徳の日等地域や家庭と連携した授業実践、道徳コーナーの充実、道徳アンケートの実施
 - ・「家庭で取り組む高知の道徳」の活用、道徳便り・学校 HP での情報発信
5. 小・中連携した道徳教育の実践研究
 - ・合同授業研究及び講師招聘による合同研修の実施

5. 具体的な取組

○学校教育活動全体を通して取り組む道徳教育

- ・道徳朝会・・・昨年度からの取組。生活目標と道徳の価値項目を関連付け、児童自身を取組によって普段の生活と道徳的価値を結びつけることをねらいとし、教師の2部会と児童会、委員会が担当して行う。
- ・委員会の取組・・・道徳朝会の提案をもとに、各委員会で取組を話し合い全校に呼びかけて取組を行う。
- ・その他の活動等・・・従来から行っている朝会活動等(挨拶・ありがとう朝会、ペア読、青空朝会、なかよしタイム等)で仲間づくりと自己有用感の向上を図る。また、学校行事や教科等と関連させて道徳授業を行う。

○授業改善の取組

- ・ユニット化・・・学校重点項目に合わせ各学期でユニットを組み、ユニットテーマを設定し、授業を実施。1学期「善悪の判断・自律・自由と責任」『自分と向き合う』、2学期「親切・思いやり」『仲間とともに』、3学期は「生命尊重、郷土愛」『生命を大切に』で授業を行う。
- ・授業づくり講座・・・他校の先生方、講師を招き、3年が教材研究会、授業研究会を実施。
- ・校内研修・・・指導案検討(ブロック)→模擬授業(全体)→研究授業→事後研究の流れで授業研究を実施。「多面多角」「自分ごと」「主題に迫る」の3点に視点を絞って協議を行う。
- ・授業改善・・・道徳教育推進教師が学級担任と毎時間の授業参観、事前・事後研究を行い、授業記録、板書の写真を残す。板書は職員室に掲示する。

○家庭との連携

- ・道徳参観日・・・保護者参加型の授業も。保護者対象の道徳アンケート、「家庭で取り組む高知の道徳」の紹介もあわせて行う。
- ・親子道徳の日・・・道徳について親子で考えたり話したりすることをねらいとし、昨年度から実施。本校の課題やユニットテーマに関する価値と関連させるなどして取組を決め、児童が「高知の道徳」に記入し家庭に持ち帰る。保護者のメッセージは道徳日よりで紹介する。
- ・「高知の道徳」・・・学期に1回以上、全校児童が同じページに記入して持ち帰り、保護者にも記入を依頼。また、学級担任が授業の際にも活用。
- ・道徳便り・・・各学年の授業の様子、朝会の様子等を紹介するとともに、「高知の道徳」に記入してもらった保護者のメッセージを紹介する。

○評価の研究

- ・児童, 授業評価・・・校内研で評価の在り方について研修し共通認識を図る。道徳教育推進教師は授業力チェックシートを用いて毎時間の授業評価を行うとともに授業記録を

残し、児童評価に活用。

○小中連携

- ・授業研究・・・小学校の授業づくり講座、中学校の校内研究授業に参加し、研修に努める。

6. 成果と課題

〈成果〉

- ・道徳科と学校行事、他教科との関連を図ったカリキュラム表を作成し、学校教育全体を通じた道徳教育を全教職員が同じベクトルで進めてこれた。
- ・2年間のユニット化による道徳の授業において、各学期ユニットを組むことで前時との繋がりを意識し、視点の広がりや深まりを持たせることができた。
- ・今年度はさらに、学校としての大きなユニットテーマを持ち、道徳朝会や委員会活動、月目標等に関連付け啓発してきたことで、学校全体で取り組むことができ、学校教育活動全体を通して道徳性を育てることが出来た。
- ・3年間の児童意識調査の結果から、課題であった児童の自尊感情はH30年度60.0%から今年度88.2%と着実に上がっており、研究の成果が見られる。道徳授業と他の教育活動の中で、児童が効果的に評価を受け、自尊感情が上がっているものと考えられる。
- ・道徳授業スタンダードを作成し、年度当初に全職員で確認を行い授業を行うことが出来た。
- ・事前研→授業実施→事後研のサイクルについて3年間で定着し、授業の質の向上に繋がっている。
- ・令和元年度より授業づくり講座で授業を行ってきた。他校の先生からも意見をもらうことで、より深い授業研究ができた。また、授業づくりに向け、職員集団の意識の高まりが見られた。
- ・講師を招聘し、「考え、議論する道徳」についてさまざまな面からご指導いただいたことで、授業の質の向上や授業改善に繋がった。
- ・研修等で得たことや、これまでの授業記録等も参考にしながら、事前研で発問や構造的な板書の工夫、評価の仕方等を話し合い、授業に繋げることができた。また、授業記録、授業の板書写真、教具、授業の振り返り等を残すことで、次年度へも引継げる体制を行っている。
- ・道徳科の評価の仕方については、講師より助言を受けながら校内研修等で全職員で研修を行い、評価の考え方や評価方法について共有できたとともに、評価の質の向上にも繋がった。
- ・授業研究における協議の視点を「自分自身との関わりで考えられていたか」「多面的・多角的に捉えられていたか」という2点に絞って協議を行った。二つの視点から、児童の様子をみとることが出来、評価の質が高まってきたと考える。
- ・全職員で学期末の道徳の評価について評価文を研修で交流し合い、評価の視点に合わせた改善を図ってきた。授業記録や児童の振り返りシートから「自分自身との関わり」と「多面的・多角的」の2つの面から道徳性に関わる成長の様子を伝えることができた。
- ・全学級公開授業の道徳参観日の実施で、保護者や地域の方に普段の道徳授業の様子や取り組みを知ってもらえた。また、保護者アンケートも実施し、保護者や地域からの意見を全職員で共有し、学校の道徳教育にも生かすことができた。
- ・「親子道徳の日」を設定し、「高知の道徳」を活用しながら家庭でも道徳について話ができるような取組を行えたことはよかった。また、学校通信、道徳通信、学級通信等で普段の道徳の様子を家庭にもお知らせすることで、児童の道徳性の向上に繋がってきていると感じる。

〈課題〉

- ・ユニットの取組を学校全体としてどうつなげていくか。
- ・来年度は複式学級ができることを見据え、今年度の取組を次年度へどうつなげていくか、取組の精選を含め、全教職員で考えていく必要がある。
- ・保護者アンケートによる「高知の道徳」の活用については、68.6%と目標である70%には届いていない。家庭を巻き込んだ取り組みを引き続き行っていく必要がある。